

[課程 - 2]

審査の結果の要旨

氏名 伊東 秀崇

本研究では、成人期の体重増加は脂肪増加が主な素因であり、血圧上昇や脂質プロファイル増悪と関連することを示した。また、肥満にいたる以前から、成人期の体重増加は循環器疾患リスクを上昇させる可能性が明らかとなった。加えて、病態的意義が注目されている代謝異常の伴わない肥満(MHO: Metabolically Healthy obesity)は、動脈硬化リスクを上昇させる可能性があるが、腹部肥満を伴わない場合には、循環器疾患リスクの上昇とは関係しないことが明らかになった。これより、生活習慣病や循環器疾患の病態における内臓脂肪蓄積、その表現型としての腹部肥満や体重増加の重要性を示唆すると考えた。

以上、本論文は循環器疾患の一次予防において腹部肥満の重要性を明らかにした。循環器疾患の予防においてリスクの評価とコントロールを行う一次予防はもっとも重要であると考えられている。その一方で、一次予防の対象は幅広く、個々の症例毎に緻密なリスク層別化と適切な予防的アプローチの選択が求められる。本研究で得られた知見は今後の予防循環器学に重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。